

こやの こういち ぎへい 小谷野 浩一(儀平) 日本画家・政治家

1905(明治 38)年～1979(昭和 54)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

入間郡柏原村に生まれる。本名は儀平。18～19歳頃から絵を描き始め、狩野光雅に師事し日本画家を志す。しかし、生家が大地主であり人望もあったことから周囲の人々に推されて政治の世界に入り、画業に専念することができなくなる。柏原村議会議員や柏原村長、狭山市議会議員を歴任。また、狭山市教育委員、狭山市文化協会会長、狭山市史編纂委員なども務めた。



自画像

2. 主な業績

①日本画家

日本美術院に所属し、奥村土牛や山口蓬春とも親交があった。こでまりや鯉の絵を得意とし、鯉を描いた「遊」で第32回院展に入選する。また、日本画院展にも入選歴がある。狭山市所蔵の作品は、「自画像」「遊」。狭山市市民会館建設の際、大ホール緞帳の原画を手がけ、入間川、秩父連山、つつじなど狭山を象徴するものを取り入れ描いたが、西陣織の緞帳の完成を見ることなく亡くなる。また、狭山市内の菓子店からの依頼を受け、店の包装紙の絵も描いた。

②地方行政・文化の普及

戦前、村議会議員から政界入りし、1941(昭和 16)年 11 月から 1946(同 21)年 3 月まで柏原村長を務めた。戦後は、狭山市議会議員として地方行政に携わる。1969(同 44)年の市制施行 15 周年記念式典では、多年にわたり市政に貢献したことにより市政功労者として表彰された。

1957(同 32)年、狭山市文化財保護条例が制定された際、文化財調査委員に委嘱される。また、1961(同 36)年、狭山市文化団体連合会の前身である狭山市文化協会発足の際には、初代会長に就任し、広く文化の普及に努めた。



作品「遊」

3. 特筆

『広報さやま』で 1966(昭和 41)年 8 月号から「史跡文化財めぐり」の連載が始まり、その執筆を務めた。第 1 回は「奥州道」を取り上げている。この連載は 1974(同 49)年 2 月号まで 76 回にわたった。連載を終えて、氏は「わがふるさと狭山にりっぱな史跡と文化財が多くあることに喜びを持ったのであります。(中略)史跡・文化財のご紹介、解説、その取扱いは非常に困難があるもので、資料すなわち文献的裏付けがなければならず、資料集め

は必然的なもので苦勞続きでありました」と書いている。この連載により、史跡や文化財に関心を持つ市民が増え、文化財保護の重要性が徐々に理解されるようになったことは、氏の残した大きな功績である。